

あの戦争を語り継ぐ
平和宣言都市
30周年記念連載③

南部なか子さん

87歳

根地区在住

銚子の空襲と終戦

私の実家は銚子でしたが動員され、川崎の工場で働きました。川崎が空襲で壊滅してしまったため実家に戻りました。銚子の空襲は確か3月9日の夜だったと思います。空襲により銚子は駅も漁師場（港）も全部焼けてしまい、私の友達も一人亡くなりました。避難したところから2キロ先の大きな観音様（圓福寺）が燃えていたのが見えました。そのお寺の周りは繁華街で、逃げるのは大変だっ

たそうです。

空襲後、親戚の見舞いに行きましたが、道の途中では多くの遺体がありました。

空襲では機銃で撃ち殺された人もたくさんいました。照明弾で辺りを明るくして、機銃でバババッと人を撃つのです。

銚子は近くの海辺に日本の海軍がいて、実家の上の山には陸軍もいたので、米軍の攻撃はすさまじかったですよ。

それから終戦になったとき、若い女は米兵に見つからないように縁の下に入れと言われました。私は、長く伸ばしていた髪も短く切りました。実家は海が近かったので、実際に米軍が上陸してきたときは「ほら見ろ米軍が来たぞ、もう海辺に来てい

るから隠れろ」と言われてすぐに隠れました。米軍は四角い形の艇（揚陸艇）で砂浜に乗り上げて直接上陸してきました。私たちは隠れていた隙間から外をうかがっていたのですが、米兵が3人ほどで家を見て回っているのがわかりました。

本当はこういう話はしたくはありません。当時は戦争で亡くなった人を何人も見ましたから忘れようと思っていましたが、こういう体験談が平和に役立てばと思っっています。

◆艇（揚陸艇） 上陸作戦などで兵員・車両を乗せて岸辺に接舷または乗り上げて上陸するための小型船艇のこと。

■ 企画政策課男女共同参画室内線 3354